

國民防空知識

特 246

931



東部防衛司令部御下

鳥羽書房發行



* 0058048000 *

0058048-000

特 246-931

國民防空知識

鳥羽書房

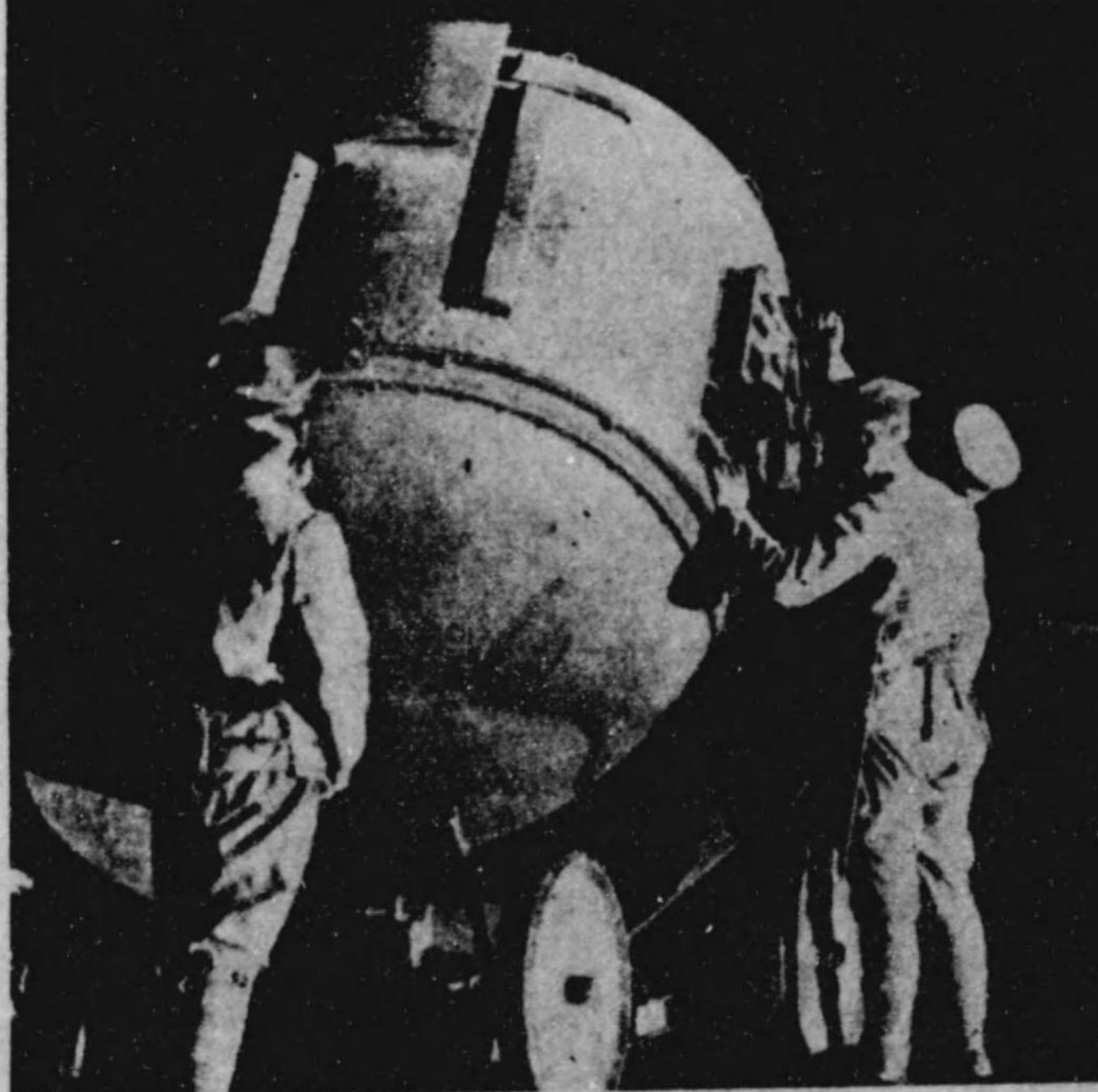
昭和 13

AJH

國民防空知識

特 246

931



東部防衛司令部御下

鳥羽書房發行



特246
931



此の小冊子發刊にあたり
東部防衛司令部吉村參謀殿、内務省計畫局防空課
池野事務官殿同計畫局庶務課三井芳文氏の懇切な
る御指導に深甚なる謝意を表す

昭和十三年九月

編者記



目次

序『爆弾投下の宣戦布告だ』……………三

国民防空體系……………五

監視、警報……………六

 防空監視哨とは——警報の種類には——警報の信號

灯火管制……………九

 灯火管制の種類——隠蔽材料と重ね枚数——灯火管制の注意

消防……………一五

 焼夷弾の種類——焼夷弾の侵徹力は——各家庭の平素の準備——焼夷弾が落下した時は

防毒……………二三

 瓦斯の種類とその處置法は——主要瓦斯の性状——防毒上一般の心得——防毒マスク——空襲された時は——防毒室の構造は——汚毒された道路や衣類は

防弾……………三〇

 途中破壊弾にあつた時は——木造建物と破壊弾は——家庭防空壕

流言蜚語……………三三

爆弾投下の宣戦布告だ！

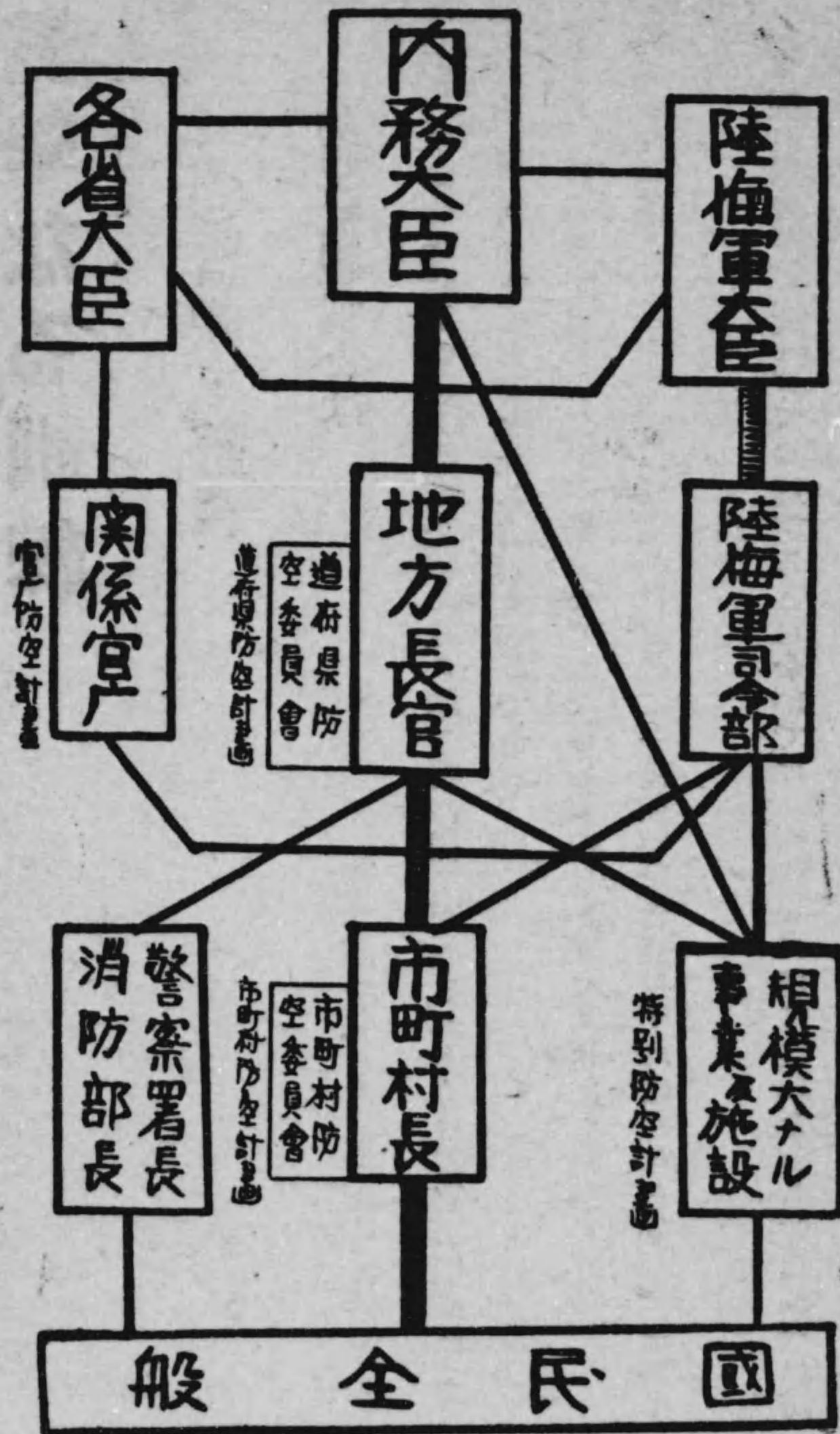
來るべき、次の開戦合圖は、**爆弾投下**、それが宣戦布告だ！

國民に課せられた、刻下の重大責務は、防空に對する、知識と訓練である。防空なき國土は、たゞ一度の空襲が焦土をつくる。

第一線には精銳部隊の積極的防空がある。我等は銃後にあつて國土を襲ふ敵機に對して、國民一致團結してたち、國土防空に備へせねばならぬ。

これこそ我等銃後を守る國民の重大責務だ！

國民防空體系



國土を襲ふ敵機は、直接間接に、軍事上の活動を阻害するのが目的である。直接には、軍事的施設の破壊、間接には公共建物に投弾して、國民の騷擾と混亂とを捲き起し、無秩序状態に陥入れ様とする。

又は一機に千箇も塔載し得る焼夷彈を投下して、全市を焼拂ふと云ふ様な手段をとるか、或は毒瓦斯彈を投下したりして來るであらう。我々はその種々の場合を考へ、充分の知識と、訓練とをもつてそれにあたらねばならぬ。

銃後國民の一般が、家庭の一員たりとも、焼夷彈に對する處置や毒瓦斯に對する應急法を各自が常識として知らねばならぬのである。

次に上げ様とすることは勿論専門的なものからは非常に遠い。然しむづかしい事よりも一般は平易な事をもつて必要としてゐるのではないか。

眞摯なる訓練

○監視・警報

防空監視哨とは

- 一、防空監視哨は國民防空の最尖端で全國に亘り網の目の様に配置され多くは僻遠の地にあつて多數の農山漁村青年等のかくれたる力強き奉公である。
- 一、防空監視哨は戦時事變の最初から終りまで風の日も雨の日も晝夜間斷なく勤務する。
- 一、防空監視哨は絶えず空を監視し爆音に注意して一度航空機を發見すれば一秒を争つて正確に報告する。
- 一、敵機來襲の報告が防空司令部に達すると司令部では一般國民に速に之れを知らせそれぞれ防空避難等をさせなければならぬ。その手段として警報は發せられる。

警報の種類には

防空警報には、空襲警報、防毒警報等あつて、空襲警報は敵機の來襲を知らせ、夜間は燈火管制を命ずるのである。

防空警報

- | | |
|--------|-------------------|
| 警戒警報 | 航空機來襲ノ虞レアル場合 |
| 警戒警報解除 | 航空機來襲ノ虞レナキニ至リタル場合 |
| 空襲警報 | 航空機來襲ノ危険アル場合 |
| 空襲警報解除 | 航空機來襲ノ危険ナキニ至リタル場合 |

警報傳達用具

サイレン、電燈、電話、ラヂオ、無電、警鐘、傳令、打上煙火、電鈴、擴聲器、ラツパ、梵鐘

警報の信號

空襲警報の信號

サイレン	電燈	煙火	警鐘	其他
三秒ヲ間シ六秒宛十回吹鳴	點滅五回以上	打上煙火四爆音	○—○—○—○—○ 一點ト四點班打	地方ノ實情ニヨリ適宜ノ方法ヲ構ズルコト
一分間吹鳴			○—○—○—○—○ 鎮火信號ト同ジ	
空襲警報				
解除				

(昭和十三年六月二十日全國一定)

(サイレンの音響到達範圍は「二馬力サイレン」で夜間又は靜かな都市は二軒雜音烈しき繁華地帯は一軒)

山中の一軒家でも燈火管制

○燈火管制

燈火管制の種類には

平常時

- 1、都市の暈光は遠距離から見え敵機の良い目標となる。
- 2、點々たる村落の燈火も敵機の進路を定める好都合である。

▽準備管制

- 1、警戒管制には至らぬが情勢稍々緊迫したる時期に行ふ。
- 2、廣告燈、看板燈の如き目立つもの丈消燈する。

△警戒管制

- 1、警戒警報の發せられた時行ふ。
- 2、全體に光を暗くするか又は隠して暈光を消し又國土の全貌を判らなくする。

▲空襲管制

- 1、空襲警報の發せられた時行ふ。
- 2、總ての光を消すか、全く外にもれない様に隠して完全に暗黒にする。

一般屋内燈

警戒管制(乙)

減光且遮光

〔室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内一燈五〇燭光以下トシテ直射光ガ外部ニモレヌコト
黒布、ポール等ノ遮光具ヲ用ヒル〕

隱蔽

〔商店ハ電燈ヲ平常通り明ルクシテ置キ窓入口其ノ他ヲ黒布等デ隠蔽シ外部ニ絶對ニ光リガモレヌコト〕

漏光制限

〔黒布等デ窓其ノ他ヲ覆ヒ漏レル光リヲ少クスル。遮光シタ個所カラ漏レル光リガ一平方米ニ三ルーメン以下〕

警戒管制(甲)

減光且遮光

〔室ノ廣サ三平方米ニ付一〇・五燭光以内一燈二燭光以下トシ直射ガ外部ニモレヌコト〕

隱蔽

〔外部ニ全ク光リガモレヌコト〕

空襲警報

消燈 隱蔽

一般屋外燈

報警襲空	(甲)制管戒警	(乙)制管戒警	街路燈
消燈	地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノニ限リ嚴重ニ減光シ且テ遮光シテ殘置シ得ル	減光且遮光 街路面一〇〇平方 米以内 上部遮光	消燈
消燈	消燈	消燈	廣告看板燈
消燈	原則トシテ消燈	原則トシテ消燈	門軒燈
消燈 隱蔽	地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノニ限リ嚴重ニ減光シ且テ遮光シテ殘置シ得ル 隱蔽	作業面一〇〇平方 米ニ付三燭光以 内トシ遮光スルコト	屋外作業燈

室ノ廣サト減光程度

室ノ廣サ	警戒管制(乙)	警戒管制(甲)
二疊	一〇燭	〇・五燭
四疊半	二二・五燭	一燭
六疊	三〇燭	一・五燭
八疊	四〇燭	二燭

大キイ室ノ場合一燈五〇燭光(甲ノ場合ハ二燈光)マデ用ヒルコトガ出來ルガ
 合計燭光數ハ三平方米(約一坪)ニ付一〇燭光(甲ノ場合ハ〇・五燭光)トセ
 ネバナラヌ。(内務省發表)

隱蔽材料と必要な重ネ數

名	稱	一枚ノ透過率	中ノ灯火ヲ通常 ノマ、トスレバ	中ノ灯火ヲ警戒管制 程度ニ暗クシタ時
金屬板、木板、黑洋繻子、馬糞紙		〇	一枚	一枚
新聞紙(兩面共墨ヌリ)		〇・〇〇〇一	二枚	一枚
黑ガス、毛繻子		〇・〇〇一	二枚	一枚
兩面黑ヌリ障子紙、ハトロン紙		〇・〇一	三枚	二枚
黑天竺、黑新モス、木綿		〇・〇五	四枚	二枚
濃色窓掛		〇・一二	五枚	三枚
新聞紙兩面刷		〇・一四	五枚	三枚

(内務省防空展ニテ發表)

燈火管制の注意

- 1、責任者を明にして残る光りのない様
- 2、燈火管制の時も平常通り作業
- 3、隠蔽する時換氣に注意
- 4、天窓、欄間に注意、風呂場便所が忘れがち
- 5、一寸の用事にうっかりつけるな
- 6、懐中電燈手許に置いて
- 7、處置は迅速に設備は各自工夫せよ
- 8、街を歩くときは細心注意
- 9、もれた一燈敵機を招く
- 10、留守にするとき、ねるときは灯を消してから
- 11、夜間外出はなるべくさけ
- 12、道路の横断、踏切に注意

恐れるな！ 悔るな！

○消 防

空襲がおそろしいと云ふのは、飛行機そのものでなく、その塔載してゐる處の爆弾がおそろしいのである。でその種類には、焼夷弾、瓦斯弾、破壊弾等がある。

焼 夷 弾

我國の建物にとつて最もおそろしいのは何と云つても火災を起す處の焼夷弾である。この爆弾は手榴弾ぐらゐのものから、十五疋、二十疋位まであつて、小型の爆撃機でも約千箇位は塔載して、都市の上空から雨を降らす様に投下するから、假に一臺の敵機が、飛んで来て焼夷弾を投下し、全塔載量の半數が家屋に落ちたとしても、五百箇所から出火することになる、四分の一としても二百五十箇所の火元が出来るわけだ、關東大震災の時でも、その火元數は百三十五箇所（直後警視廳調）であつたと云ふ。それが一臺の敵機が飛來してもそうであるから二臺、四臺と飛來

したとして瓦斯弾を共に投下されたとしたら、日常の準備と訓練がなかつたらどんなに狼狽するだらう。だから一戸に一箇は落下してくるものとしての覚悟と準備が必要である。

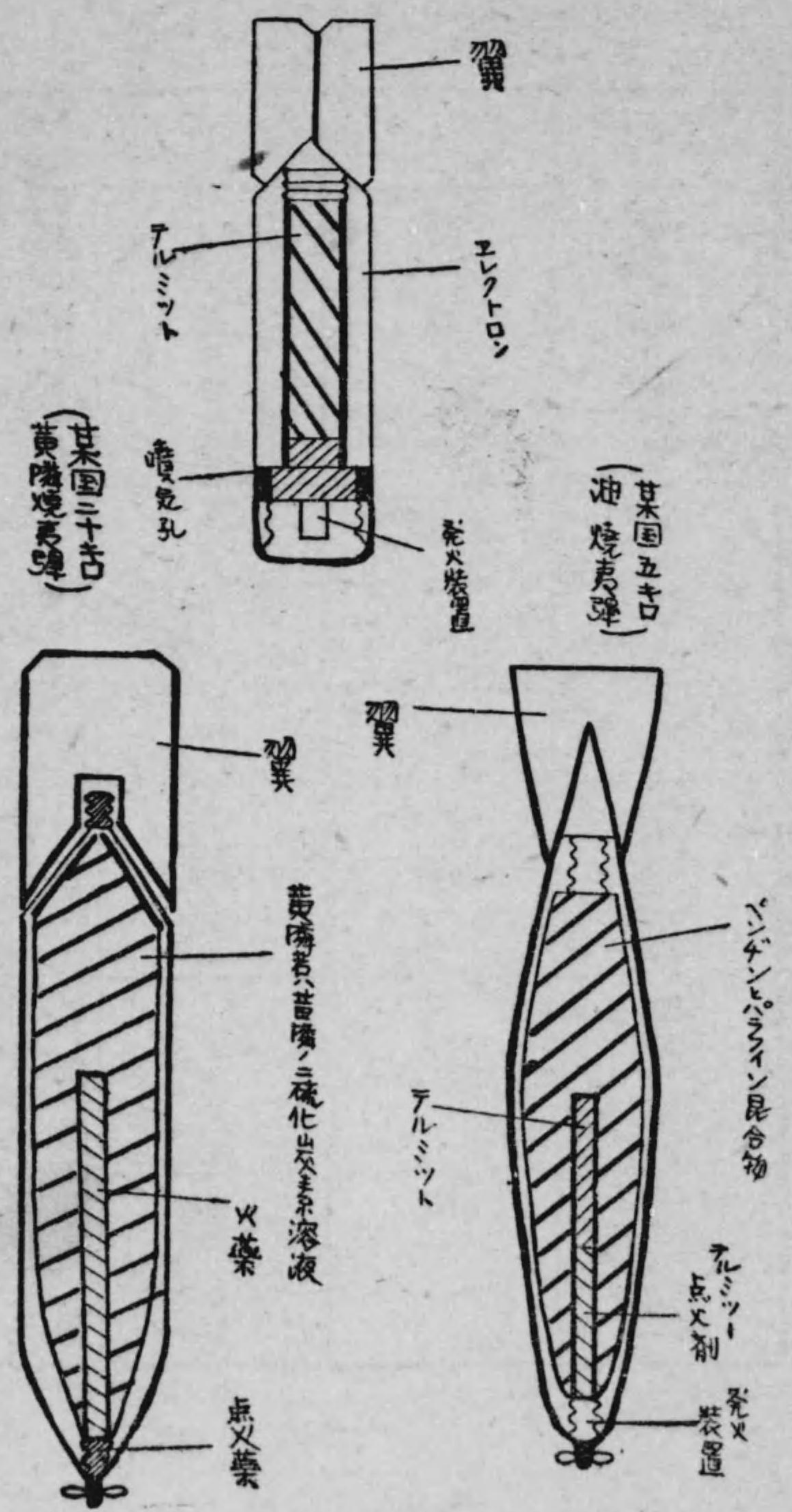
焼夷弾の種類は

焼夷弾の種類には、黄燐焼夷弾、油脂焼夷弾等があり、歐洲戦争の頃盛に都市攻撃に使用されたもので、此度の上海戦にも支那軍が之れを用ゐたが、相當大きな爆發力をもつて居る。然し最新式の最も偉大な焼夷弾は「エレクトロン焼夷弾」であつて、その盛んに燃える時間は發火後一分乃至二分である。又弾の大きさによつて多少の相違がある。

焼夷弾の侵徹力は

平家の場合は通常屋根及天井板を貫通し一階床に落下して燃焼する。二階家の場合は屋根及天井を貫通して二階床上で燃焼する。

(某國キーエロクレトノ焼夷弾)



エクレトシロト焼夷弾

10	5	1 粒	彈種
1.2	0.7	0.4 米	彈體
同 一分半	同 一分半	發火後一分	時盛ニ燃エル 間
4	2	0.5 米	大焰ノ サ
13 15	7 10	5 10 米	散火沫ノ 飛界
20	15	10 分	燃エ終 ル時間
ガ一分後ニ穴 アク	ガ一分後ニ穴 アク	ガ二分後ニ穴 アク	各種物件ニ對スル効力
變化ナシ			煉瓦層
十耗鐵板ハ 彎曲シタノ ミニテ穿貫 セズ			鐵板
同			鐵板

家庭には夫々の準備と訓練

各家庭の平素の準備は

焼夷弾火災の防禦準備としては

- 1、大樽、風呂桶、バケツ、たらひ等の貯水用具
 - 2、出来得れば各戸に水道を引きホースを備へる
 - 3、現在ある井戸を保存するは勿論新に之を掘る事も必要。空地には貯水槽、池等を設ける
 - 4、砂桶、砂囊、ふとん等を用意する
- 警報が發せられた時は

- 1、出来るだけ多量の消防用水を準備する。二階以上の建物では各階に消防用水を備へる
- 2、家屋内の燃え易いものを取り片付ける
- 3、揮發油、アルコール、セルロイド等の火の付き易い物はとりまとめて屋外にもちだしなるべく地下に埋めること。屋根裏、二階等も燃え易い物を置かない様にする

空襲警報が発せられた時は

- 1、火氣の始末を忘れぬこと(ガスはメーター前で止める)
- 2、防火擔任者は焼夷彈の落下を監視し、隣家よりの報知を聞くことのできる安全な場所で待期する
- 3、家族は家屋内の安全な場所又は家庭防空壕内に避難する

焼夷彈が落下した時は

一機に千箇以上も塔載してば撒くとしたら必ず自分の家にも落下して来るものとして準備せねばならぬ。落下した時は直ちに近隣に焼夷彈の落下を知らせ、近隣一致協力して自分達の力で防火鎮滅せしめると云ふ決心が何より必要である。

- 1、直ちに近隣に大聲で落下を知らせると同時に次の方法で防火作業に従事する。
- 2、焼夷彈は、自分から酸素を發生し乍ら燃えるから、彈そのものは水をかけても消えない。だから、ふとん、座ぶとん、又は砂等を直接焼夷彈にかけて火焰を押へる。
- 3、焼夷彈の熱は高いが、附近に燃えつかなければ數分で消えてしまふからこの點に着眼する。

4、従つてそのものゝ消火よりも、燃え易いものの燃焼防止に主力を注ぐことである。

(イ) 天井裏に落下した時はその部分の天井を破つて焼夷彈をなるべく早く落して床上で燃焼させる様にし、天井裏及焼夷彈の附近に注水すること。

(ロ) 建物外壁に接近して屋外に落下した時はその附近の外壁に注水すること。

(ハ) 近隣の人々だけで防火が出来ないと思はれる場合は迅速に最寄の防火班に通報する。

(ニ) 焼夷彈の火力が衰へたならなるべく早く屋外に掬ひ出すこと。

(ホ) 不發彈を發見した時は決して接觸移動せず最寄の關係筋へ速かに報せ、その處には標識をたて、置く。

5、焼夷彈が燃える時には、非常に強い燭光をはなつものがある。それ等を少し長くみつめると眼球に激痛が來たり、結膜炎を起したりするから注意せねばならぬ。作業に當る者は有色眼鏡を使用することが肝要だ。

備へあれば憂なし

○防 毒

瓦斯 彈

毒瓦斯の使用禁止は各國に於て協議條約も結ばれてゐるのではあるが、それに参加せぬ國もあり絕對に禁止することは考へられぬことである。尙某國では最も熱心に之を研究してゐる。一旦空襲と云ふ時には之等の毒瓦斯が攻撃して來ると豫め覺悟せねばなるまい。

瓦斯の種類とその處置法は

毒瓦斯の慘害は非常におそるべきものであるが、その豫防方法が適當なれば充分慘害を防ぐことはできる。

主要瓦斯ノ性状

區分	名 稱	投下時ノ状態	持久性	作用	攻撃ニ使用スル方法	個人防護法
窒息瓦斯	鹽化ビクリン 臭化ベンヂル 鹽化アセトラフイノン	氣體	一 時	呼吸器が侵サレ窒息シテ死ニ至ル	投下瓦斯	防毒面及防毒服、靴、手袋等
催涙瓦斯	アダムサイト ヂフェニール鹽化砒素 ヂフェニール青化砒素	氣體	一 時	眼ヲシゲキシテ涙ガデル、一時視力モ害ハル	投下瓦斯	防毒面及防毒服、靴、手袋等
クシヤミシ性瓦斯	ケムリ	ケムリ	一 時	鼻、喉ガ侵サレクシヤミシガ盛ニ出汁、唾液ガ盛ニ出テ咳キコミ苦シム	投下瓦斯	防毒面及防毒服、靴、手袋等
中毒瓦斯	青酸	氣體	一 時	神經系統或ハ血液ガ侵サレ中毒シテ死ニ至ル	投下瓦斯	防毒面及防毒服、靴、手袋等
糜爛瓦斯	イペリット ルイサイト	液體及氣體	持久性	皮膚ガ侵サレ火傷ノヤウニタレル 眼、呼吸器、消化器等モ侵サレル	投下瓦斯 下ハ瓦斯雨	防毒面及防毒服、靴、手袋等

(内務省防空展發表)

防毒救急處置

區分	名稱	救急處置		注意
		救急	處置	
窒息瓦斯	鹽素	1、絕對安靜保溫 2、酸素吸入		人工呼吸ハ却テ危險
	ホスゲン	3、コルヒール又ハコニヤツク服用 4、瀉血、強心劑注射		
催涙瓦斯	鹽化ビクリン			濃厚ナル鹽化ビクリンニハ窒息ガ處置ガ必要
	臭化ベンヂル	洗眼 2%重曹水 2%硼酸水		
クシヤミ性瓦斯	アダムサイト			
	ヂフェニール鹽化砒素 ヂフェニール青化砒素	1、含嗽及吸入(2%重曹水) 2、皮膚ニ痛アレバ2%炭酸ソーダ水ニテ洗滌		
中毒瓦斯	青酸	1、人口呼吸 2、酸素吸入 3、安靜保溫		
	イペリット	1、拭淨(布又ハ紙) 2、洗滌(石油) 3、泥條晒粉又ハ過マンガン酸カリ、マグネシヤ泥狀混劑上塗布 4、洗眼、ウガイ、五千倍ノ過マンガン酸カリ水		
糜爛瓦斯	ルイサイト			

(内務省防空展發表)

尙防毒上一番大切な事は各自が毒瓦斯に關する智識を心得て置く事である。

防毒上の一般的心得

- 1、各自が毒瓦斯に對する智識を心得て置く事。
- 2、慌てず、騒がず落ちついて平素からの心得をそのまま實行する。
- 3、毒瓦斯は一種の臭氣があるから其れに氣が付いたら直ちに附近の交番又は防護團等に知らせる。
- 4、防毒面の用意もなく家を捨て、にげ出すことは瓦斯の被害を大きくするだけである。
- 5、逃げる時は殊に風向に注意して濡手拭等で鼻を掩ひ風上へ逃げねばならぬ。この時あわてゝ瓦斯の中に紛れ込まぬ様しなければならぬ。
- 6、簡易防毒マスクを所持してゐるものは速かに之を使用する様になし、此の種の物が無い者は濡手拭をやはり使用して口、鼻を覆ふ。
- 7、高い所は毒瓦斯に對して比較的安全である。大建築物の四階以上は防毒上有利である。
- 8、イペリットの様な持久性のある場所へ若し止むなく近よる時は防毒衣を着用するかそれができない時は長靴、手袋(ゴムノモノ)等を必ず着用しなければならぬ。

- 9、毒瓦斯にふれたもの、又はその恐れのある物は迅速に消毒しその後それを使用する。
- 10、毒瓦斯に感毒しても其の作用の現れて來ることが遅いことがあるから若し感毒した怖れある者、又は幾分でも瓦斯にふれた者等は手をもつて身體をかき目を擦る様なことをするのは最も危険なことだ。

11、木造家屋では充分目張をした簡易防毒室とか防毒カヤも一時は間に合ふが、破壊、火災の場合は絶対に安心出來ないから、應急防毒面等の準備を忘れぬ様注意が肝要。

防毒マスクは

防毒マスクには、その種類はいろいろあるが、型式の認可された、マークの入つたものがあるから、それを使用することが一番だ、しかしマスクの間に合はぬ人々は、應急策として

- 1、濡手拭をもつて鼻口を覆ふ。手拭、ハンケチ等は一枚よりも五六枚重ねて使用する。
- 2、メリンス布を撰んで之を十數枚重ねて使用する。
- 3、メリンス布を折重ねた間に、濕潤せる腐土を層にして入れて使用すれば更に有効だ。
- 4、之等は勿論止むを得ざる場合のことであるから、絶対に安心できるものではない。一刻も早く風上か、避難所、山の上に避難せねばならぬ。

近隣團結

空襲された時は

- 1、無統制による混亂は空襲よりおそろしい、空襲に怯え多人數が周章狼狽して右往左往その爲混亂を來すことは却つて危険であるのみならず、必要の防護活動の防害となる。
- 2、外へ飛びだして誰が家を守る！ 各戸の防空は各戸で行はなければならぬ。
- 3、屋内に踏み止つて、防護につとめよ、避難の原則としては自衛防空の精神から各自家庭にふみ止つて防護につとむることを本旨とし、空襲による被害、火災、被毒等已むを得ざる場合に限り避難することになつてをる。吾先にとびだしたりして防空の責務を放棄するな。
- 4、群衆が狭い街路で狂亂の渦卷を作ることには、實におそろべきことだ。殊に夜間燈火管制の實施中であつたりしたら暗の中に自ら死傷者を出す様な事になる。
- 5、沈着整然、通行者は交通整理に従へ已むを得ず避難する場合の通行者は交通整理員の指圖にしたがひ防護活動を妨げない様にせねばならぬ。

瓦斯の避難に地下道や地下室は

- 1、毒瓦斯の多くは空気よりも比重が重いから低い處から低い處へと流れこむ。だから、地下室や地下道でも防護の設備がなければ何もならない。
- 2、地下室、地下道ばかりでなく、凹地や谷等でも、瓦斯は求めて流れこむし又流れこんだものは長く停留する傾きが多分にあるから其の點を注意せねばならぬ。
- 3、防護設備のない地下室に狼狽してにげ込むことは却つて禍害を大きくする原因ともなる。

防毒室の構造は

防毒室はなるべく耐火耐弾建築物に、地下室を選び前室をへて收容室には入る構造にする。防護室への出入は落付いて係員の指示に従ふことが肝要。

- 1、防護室には收容室と前室を設け、前室を通つて收容室には入る様計畫すること。
- 2、防護室には二つ以上の出入口を互に隔つた所に設けること。
- 3、開口部は氣密となし、出入口には防毒扉を取付け此が外氣に面する場合は耐弾的となす。
- 4、收容室には人力を以て運輸し得る空氣濾過器を設備すること。

汚毒された道路や衣類は

- 1、持久ガスで汚毒された地域を消毒もせず警戒もしなければ、多くの人が被害を受ける。
- 2、糜爛ガス等の持久ガスが投下された時は直ちに汚毒地域を區別してその部分の立入りを禁止消毒を行ふ。
- 3、土壤は瓦斯を吸収する性質があるから土地、道路が一度汚毒されたら中々無毒にすることは困難である。殊に時間がすぎればすぎる程地層の深部に浸潤吸収せられて行くから、できるだけ早く消毒せねばならぬ。
- 4、道路の消毒剤としては漂白粉(晒粉)を汚毒地域に撒布することが、簡易な消毒法として有効、又廉價でもあり容易に供給もできる。
- 5、晒粉の撒布量は大體一〇平方米の土面に晒粉一匁ぐらゐ、然し瓦斯彈の投下された場所は其の三倍ぐらゐ撒布せねばならぬ。
- 6、汚毒された衣類を手等で拭ふことは、自ら傷害を受くるに等しい、衣類はそのままぬぎすてねばならぬ。
- 7、被害者は早く救出して手當をすることが肝要だ。

○防 弾

爆弾にも種々あるが、その重量は、三四貫程度から二百六七十貫ぐらゐまでの重いもの、又その上のものである。之等は多く大きな構造物、軍艦等を破壊するので、小さなものは人馬の殺傷木造家屋の破壊等に使用する。

途中破壊弾にあつた時は

- 1、空襲時戸外を歩くことは、最も危険で、殊に爆弾の破片による被害が甚だ大きいから、これをさけることが極めて肝要。
- 2、通行者は交通整理員の統制のもとに近くの公共防護室に避難せねばならぬ。電車、自動車も停車して乗客も避難の必要がある。
- 3、附近に防護室のない時はなるべく堅牢な建物内のガラス戸類よりはなれた位置にひくい姿勢で居なければならぬ。

木造建物と破壊弾は

- 1、木造建物は破壊爆弾に對しては全く無抵抗であるから、空地に防空壕を掘り空襲に備へる必要がある。
- 2、防空壕から室内が見易い様に建具類は取除き焼夷弾の落下を直ちに發見して防火處置を取り得る様にしなければならない。
- 3、尙相當遠隔離の地に命中しても其の餘波により硝子戸類は壊れ易いから、破片が飛散しない様に取外し又は紙を張りつける等の注意を要する。

家庭防空壕は

- 1、防空壕は庭又は空地に濕地を避けて作り、各材料は釘、鐵、鐵線、方杖等で堅固に止めること
- 2、防空壕の入口は屈曲し置くか或は防護扉を設けること、又破片用木製扉及防毒幕を取付ければ一層効果的である。
- 3、防空壕は雨水の流入を防止し排水に注意すること。
- 4、防空壕に防毒設備なき時は防毒面を所持して入ること。

○流言蜚語

最後に、大切な事は、如何に整備された防護園があり、銃後の國民があつても、大衆が流言蜚語の爲に混亂と不安状態に陥入ることは、國土防空陣に大きな動搖を來すものである。

天災或は戦争の時、大衆の精神状態は不安に襲れ、甚だしく昂奮し、物事に對して判断力を失ひ、全く理屈にならぬ事でも針小棒大に考へそれを云ひたがるものだ。そして煽動され、暗示にのり、流言は流言を産んで、群衆の大動搖ともなる。

かゝる時、日常植ゑつけられた訓練と常識は事にあたつて判断力となり、沈着靜然迷ふことなく國民防空に完璧を期することが出来るわけだ。

だから平時よりあらゆる手段をもつて一般常識の向上を計らなければならない。

386
657

昭和十三年九月二十日印刷
昭和十三年十月十五日發行

國民防空知識
定價 十錢(送料三錢)

編輯兼
發行人

小橋 豊
東京市下谷區上根岸町四九

(不許複製)

印刷人

高瀬 宏
東京市牛込區山吹町一九八

印刷所

高瀬 印刷所
東京市牛込區山吹町一九八

東京市下谷區上根岸四九

發行所

鳥羽 書房

電話根岸(87)〇八二三番

空防



省務內

